

第4回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会議事録

■日時

令和6年10月8日(火)13:30～15:30

■場所

草津市立市民総合交流センター(キラリエ草津)303会議室

■出席委員

乾委員、深川委員、森田委員、四方委員、宮木委員、出呂町委員、浅見委員、磯山委員、
木下委員

■欠席委員

井戸田委員

■事務局

【行政】

小寺副部長、西山課長、坂居課長補佐、藤原係長、石原主任

■中間支援組織

【(公財)草津市コミュニティ事業団】

福留事務局長、茶木課長、栗田氏

【(社福)草津市社会福祉協議会】

秋吉課長、青木副参事

■傍聴者

無し

1. 開会

【事務局】

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第4回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会を開催させていただきます。

本日は、公私共に多忙な中、当委員会に御出席賜り、誠にありがとうございます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、まちづくり協働課の西山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日は9名の委員に御出席いただいております、当委員会の半数以上の出席でございますことから、運営規則の規定に基づきまして委員会の開催要件を満たしておりますことを御報告いたします。

また、E 委員につきましては都合により欠席となっております。
さて、当委員会につきましては、草津市市民参加条例第9条の規定に基づき、傍聴が可能となっております。

委員会の会議録につきましては、後日公表させていただきますので、記録のために委員会とワークショップの様子を録音しておりますので予め御了承ください。
さて当委員会につきましては草津市市民参加条例第9条の規定に基づきまして、傍聴が可能となっておりますが、後ろの席を御覧いただきますとわかる通り、本日は傍聴の方はおられません。

先にお伝えしております通り、本日は当日配布資料がございますので、確認いただきたいと思います。追加資料1と追加資料2でございます。よろしくお願いします。

それでは、次第2の協議事項に移らせていただきます。ここからの進行につきましては、委員長をお願いしたいと思います。

【委員長】

皆さん御苦勞様です。ようやく暑さも過ぎやすくなってきて、なんか急激に寒くなるらしいですね。お体に気を付けてください。

ということで、ずっと第3次協働のまちづくり推進計画案を見てきたわけで、事務局さんも皆さん方の御意見をいただきながらここまで来しました。今日はこちらかという、素案の検討ということになりますから、一からというよりも、事務局がまとめた素案に対してここが足りないとか、こういうことを付け加えられないかとか、そういう議論をする場になります。

私は事前に聞かせていただいているのですが、とはいえ、読むと結構大変な長さだし、どこがポイントなのかという話があるかもしれませんから、一応全体としてポイントを絞りながら解説を事務局にしてもらった上で、なるべく皆さん方から思いをいただくという時間を取りたいと思います。

では、事務局よろしくお願いします。

【事務局】

はい、ありがとうございます。それでは資料1、資料2と追加資料1、追加資料2についてまとめて御説明をさせていただきますと思います。
(事務局説明)

【委員長】

今まで提案されていなかった部分が提案されているので、そこにはきちんと十分時間をかけてやりたいと思っています。その上で、まだ少し時間ありますので皆さん方の意見を確認していくことを先にしていきたいと思います。

形式的に見た上で、第1章は言い方が悪いですけど、建前とか、一般的な話を書いてあるので気にならないかもしれませんが、もし1章の方で気になる場所があったら、意見を出していただけますか。

【J 委員】

ちょっとわからないので質問になるのですが、各主体のところの説明の後に、例えばそれぞれまちづくり協議会が具体的に本市でどれだけあるのかが書いてあるのですが、市民公益活動団体とはどれぐらいの団体が、登録などをしているものなのか、そういうことがわかっていたら書いた方がいいと思いました。

ちなみに教育機関はもう既にわかっているのですが、市民活動団体とかは具体的に書いておいたらいいのではないかと思います。

市民公益活動団体っていうのは把握できるかどうかかわからないので、そこはもし分かれば書いたらいいのかなというのは思いました。以上です。

【委員長】

これはある程度登録しているものとかは書けますよね。

【事務局】

そうですね。市の方と、事業団の方と、社協の方でまとめている団体がそれぞれありますのでそれらの数をそれぞれ挙げる感じになると思います。

【委員長】

特に草津市は活動が盛んなので、そういうものもちょっとだけ書いておいてください。ここに全部書くのは無理だとしても、参考になると思いますので。

資料の出典とか、どこに行ったら分かるかとかを書いておくと、ちょうどいい機会ですからね。

他はありますか、それでよろしいですね。

【C 委員】

3ページのところの各主体というところで、今までの会議の中でも7つの主体というのが書かれていて、第3次計画っていうのはそれが各主体になるという意味だというふうに御説明を受けていたのですが、ホームページで調べると、第2次の計画では、市民とは「市内に居住し、通勤し、もしくは通学するもの、市内で活動する団体または市内で事業を営む者をいいます」というのがあり、ここまではいいのですが、第3次では、市民にはまちづくり協議会、基礎的コミュニティ、市民公益活動団体、教育機関、中間支援組織も含まれますということが書かれています。

第2次のときの書き方としては、大きな丸が市民でもう1つの丸が市というような2つの分類になっていて、まちづくり協議会とか、基礎的コミュニティというのは、市民の中に含まれているという形で表現されています。これが第3次になると、7つの主体としてはっきりと色分けをするというか区分をするというか分類をされているのですが、そうせざるを得ない5年間の間に事情があったのでしょうか。そこら辺を説明していただくと、私としては非常にありがたいです。

というのは、好事例・先進事例の中に市民が出てくるのですが、その市民がちょっとイメージできなくて、さかのぼって考えると、市民の定義がもう一つモヤモヤとしてわかってないので、その説明をいただけるとありがたいです。

【事務局】

はい、ありがとうございます。市民の中にまちづくり協議会、基礎的コミュニティ、その他が以前は入っていたということですが、後ほど出てくる文章で、市民という言葉が狭い方の市民を指すのか広い市民を指すのかがわかりにくいということですが、また後ほど事例集の右肩のところ、何とかのラボなのかっていうのを見出しで書いていまして、その市民っていうのが何を指しているのかわかりにくくなるということで、ここでは狭く解釈した定義を書かせていただいています。

ただ、前回の計画でありましたように、市民というのは広い概念を持っているということ、新計画では3ページの(4)の用語の解説の各主体の文章で一部表現させていただいておりまして、「協働のまちづくりを行う各主体については以下のとおりです。なお」以下のところで、「各主体についてはそれぞれ重なり合う部分があることもあります」ということで、書かせていただいております。

他市の協働計画を見ても、この市民の中に他の主体が含まれていると書かれているものがないため、当初のものが非常にわかりにくくなっていると思うので、そこはもうポイントを絞って、条例で指す狭い意味の市民を指しているということで、ここはあえて第2次で書かれていたものを簡単に表現することに代えさせていただきました。

【委員長】

ちょっと私も不注意でしたが、非常に大事な指摘だと思います。

まだC委員の中で釈然としない部分があったらもう少し説明してもらったらいいいですが、今のでよろしいですか。

【C委員】

この追加資料の好事例・先進事例のところでなぜ私が混乱したかという、元々はこの好事例・先進事例というのが書かれていて、具体的にこういう動きがあったから、この協働が成立した、協働ができたということを書いてほしいなという思いでこの事例を読んでいました。

そのときに、例えば33ページの上の2番目で、「学ぶ・つながる・地域の輪」という記事で、草津学区ひとまちいきいき協議会×草津中央おひさまこども園が芋掘りをしたという事例で、それはまちづくり協議会と市民と教育機関が協働してこういう事業ができましたという協働の好事例として書かれています。

このポイントとしては、まちづくり協議会、市、教育機関の協働により事業が成立したと書いてあるのですが、この概要やストーリーを読むと、草津学区ひとまちいきいき協議会というのはここでいう右肩の上についているまちづくり協議会なのかなと、草津中央おひさまこども園というのは教育機関なのかなと、そうすると市民はどういう形で関わっていたのかなというのが、ストーリーや概要を読むとちょっとわからなかったのも、はて市民って何だろうということで第2次の計画を見て市民の定義というのを新たにしたということなのですが、ここでの市民の関わり方というのがわからなかったです。

他の事例でも市民と書いてあるものがあり、34ページの健幸事業でも、まちづくり協議会×市民×市と書いてあって、この概要を読むと、まちづくり協議会と市がこう動いたというイメージはあるのですが、市民がどこに入っていてどういう動きをして、どういう軸の健康に関するこういう素晴らしい取り組みができたのかというところがちょっとイメージできなかったのも、市民とはということをお伺いした次第です。

【委員長】

この事例をぱっと見ると、市民が参加したという意味ですね。実際は市民を担い手側として数えるかどうかという方の話ですね。要するに市民が企画とかそういう活動に、積極的に個人レベルで参加したという話ではない。だからそのあたりがわかるように、まずは確かに大きい整理整頓をする必要があると思います。その上で形の確認をしないとイケないのだけど、第2次案はきちんと議会で承認されて動いている話で、第3次案で市民の定義について変えることそのものは問題ないのかどうかという、形式論的な話は一応確認しておかなければいけないですね。

一応定義としてきた話がどう整理されるのかというのは、委員会の問題じゃなくて事務局の問題として確認しておかないといけないですね。

【C委員】

市民が協働事業に参加者として書かれているというのは、今初めてそうなのかと思いました。41ページにやまだメロンまつりというのがあるのですが、これはまちづくり協議会、市民、教育機関と書いてあって、多分この中で市民というのはヤマミラだと思うのですね。

このヤマミラが何でできたかというのが概要欄に書いてあって、私はこういう事例を市民が集まって1つの団体としてヤマミラという市民グループが協働してやったのだと思って読んでいたので、38ページの有償ボランティア検討会の審議がというのは、どこに市民がいるのだろうかという風に読み間違えていました。

【委員長】

読み間違いではなく、多分その辺は整理整頓が必要だと思います。むしろそのヤマミラみたい

なグループをどう呼ぶのか。つまりこれから先にも出てくる、それこそ自然発生的に現れてくるものが大事だよと言っているわりにそういう存在を、どのように見るのかという話はどこにもないという事です
ね。

これで言うと④の市民公益活動団体になるのだけど、そういう登録はそんなところまで堅い形でできていない。場合によってはある時くつついたり、ときに離れたりするかもしれない。そういう存在をちゃんと整理整頓しとかなきゃいけないということですね。それは多分この主体の中でもすごく大事な話に本当はなるでしょうね。

だからそれはすごく大事な指摘だと思うので、形式論的な話は別として、市民と呼ばれるところの定義のところをもう少し考える必要がありますね。市民と呼ばれるものというのは、以下のいろんな団体や主体も市民によって構成されているということですよ。

最初の第2次案に書かれていた話はそういう話があり、プラスアルファのところ最近の動きとして、その市民がそれぞれの思いをもとにして、自由に集まって何か活動に取り組む事例が見られるということですね。それをどう名付けるかで、ここで急に言うわけにはいかないけれども、名付けてもいいし名付けなくてもいいし、少なくともそんな話は方針のところに書いておいてください。

事例の方で言うならば、さっき言った参加者のところは市民と書く必要はなくて、むしろその事例の方の但し書きで、主体の説明のところと言った、市民の中でどういう動きがあると、こういう話をしてきたと、そういう動きについては、ここでは市民という形で記載するとかね。

そういう形でちゃんと整理整頓した方がわかりやすいという以上に、多分わかりやすさを超えてもつと趣旨として、非常に明確になる話のような気はします。

【D 委員】

今の第3次の計画を見たときに、まちづくり協議会っていうのは市民とはまた別に存在するような受け取りにならないかなと思います。

まちづくり協議会は市民の代表であるとしたときに、市民はまちづくり協議会に属しているということになりますよね。

【委員長】

そうですね。第2次の書き方のところでいうとそうなりますね。

【副委員長】

今ほどの議論に関連して。「なお各主体についてはそれぞれ重なり合う部分があることがあります」の部分削除の方がよいと思います。委員長がおっしゃるように、市民には、私個人で動くあり方、そして各主体に属しながら動くあり方のどちらもございます。後者の個人が組織を背負って動くあり方も表現していくことが大切だと思います。

あともう1つは、計画の中で私発の動きを大切にするのであれば、近年は私たちの想いや個人の問題意識から動き出すグループが見受けられ、例えば、地域で子どもを育む取り組みなどを行っていることをどこかに説明しておく必要があります。さらに加えるとするならば、これまでの地縁型、志で動くテーマ型のいずれかではなく、楽しいから、気が合うからといったような、谷(2023)がいう気縁型のようなアクターが見受けられることも補足しておいた方がよいかもしれません。この部分に、すべて記載するとこの部分のボリュームが大きくなりますので、ここでは少しの説明にして、その内容を後半で受けられるようにするかたちがよいと思います。

【委員長】

形式的な風に聞こえながら結構大事な議論を今していると思いますが、各主体のところをここまで機械的に書くのは難しいので、最後か最初にもう一つちゃんと書いておかないといけないのは、まちづくり協議会と市民の動きが重なりつつあること、公益団体とまちづくり協議会でもかぶる部分が出てきていることですね。

だから議論の整理上、こういう形で分かれていると整理しているけれども、実際は最近の状況としては、いろんな動きがあるし、そういういくつかの形の中で、重なって活動が活発化している事例が多く見られるようになってきたという話をきちんと書いておくことはすごく大事なことです。だからもっと言うならば、今回の計画はそういう新しい状況を踏まえつつ策定したというのを書いていてもいいぐらいの話だと思います。

【事務局】

ありがとうございます。おっしゃる通りで、第2次から第3次の移り変わりの中で、大きく変わってきたというのが現状と課題のところ、地縁組織とか各種団体というのが高齢化等によって廃れてきている一方で、地域で課題がいっぱいあるけれども、その課題について、どう市民さんが参加しているかという、それこそ私発で楽しみだったりとか気が合ったりだとか、興味関心が形になって、実はそれが協働となって公益性を高めた活動になっているということだと思います。

先ほどおっしゃったみたいに条例から第2次計画から市民というのをどうするかということについて良い意見をいただいて、そのとおりだなという風に思っております。私個人としての市民と地縁であったり、同じコミュニティだとか、組織に属する市民であったりというところを、もう1回整理させてもらいたいと思います。

好事例・先進事例に関する御意見もすごく重要だなと私も思っていて、そういう中で、私発とか興味関心が形になって、それがこの計画期間中に新たな芽吹きとしまして、地縁とコラボしながら良い活動もあってきたというのは好事例かなというふうに思っております。

そういったことに重点を置きながら、それが結局子どもの居場所になっているだとか、そういうことももう少しブラッシュアップして好事例は整理していきたいというふうに思っています。

【委員長】

大事な議論だと思います。ここから先は私の個人的な話になってしまうのですが、私発で市民が自由に思い始めるという話はすごく大事なところだと思います。

繋がりが広がっていく、あるいは市民公益活動と、そういう動きが繋がることによってそういう新しい人たちの居場所が見つかっていくと、それを私発だけで進めるのではなくて、そういうことで動き始めた人たちがうまく収まる場所としてのまち協だとか公益団体だとか、そういうものが好事例の中で見られることだと思っています。だからそこは大事にした方がいいと思います。

【事務局】

ありがとうございます。好事例はまだちょっと時間が割けていないので、そういう透明性のある好事例にブラッシュアップしていきたいと思っています。せっかくこの期間中で芽吹いてきた草津の協働事業なので、それが先に目指すべきまちづくりの姿なのかなと思ってもらって全く問題ないです。

【委員長】

第1章で他に気になるところはよろしいですか。

【D 委員】

まちづくり協議会の中の黄色の部分で、「基礎的コミュニティや各団体等を中心として」と書いていますよね。何となくちょっと気になったのですが、町内会っていうのは、要は御近所の繋がりとかがそういう意味で本当に小さい単位かもしれないですが、それが基本になって町内会にちょっと広がって、それを束ねて何か緩くある程度、繋いだのがまち協っていうイメージなのです。

そのとき町内会とかその辺のキーワードがあまり出てこないっていうのはちょっと気になりました。

見ていたら、最後の追加資料の29ページの真ん中辺りに繋がれるところで初めて町内会という言葉

が出てきて、その辺がもう少し整理できていればいいと思いました。

ここではまち協っていうのはピラミッド組織の中の、ある意味地域の頂点に立っていて、そこからトップダウンのような感じに受け取られるのではないかなと思いました。

【事務局】

御意見ありがとうございます。まちづくり協議会もこの4、5年で大きく変わってきたなと思っています。やはりあちこちの活動が行き詰っている中で、今まで基礎的コミュニティという町内会を屋台骨としてきたところが、大きく廃れてきているというのがあって、まちづくり協議会の中で、ある一部の事業を展開しよう、あるいは実現しようとしたときに、興味関心で手挙げ方式に変わってきているというところを見ると、今言っていたみたいなのにピラミッド方式ではなくなっています。

その部分をどこかに折り込めたらなと、そこが好事例の中に入れるのかっていうのはちょっとこちらで預からせていただきたいなというふうに思います。

【委員長】

今、D委員のおっしゃる話を少し配慮すると、基礎的コミュニティの手前に「町内会などの」というのを入れておくと、まちづくり協議会の説明の中に町内会という言葉が入ってくるよということですね。今日ここで云々言う話ではありませんが、まちづくり協議会について、各学区や校区ごとにいろんな形ができつつある。だから、きちんとそれをそれぞれの地域に合わせて、議論していくことが大事だという話だと思います。

だから書くならそれは多分最後の実績目標の方の話として書いた方がいいですね。前から継続されているみたいに、実際は市がまち協に出向いて、もう一度話とか、あるいは数が多いから大変だけど町内会に出向いて話をするとか。この前も話に出ましたが福岡市では町内会に出向いて話をしているわけだから、何かそこが非常に大きなポイントになりそうな気がします。

【事務局】

委員長のおっしゃるとおりで、第1次計画、第2次計画とあって今回第3次になるとともに、まちづくり協議会ができて13年経ちます。13年前はどういうことかという、まち全体が高齢化して縮小していく、そういう中で力を合わせてということですし、ちょうどこの3次計画はターニングポイントに来ているかなと思っています。そういう中で、委員長がおっしゃるように各まちづくり協議会で新たに芽吹いてきた動きがあって、それが各地域の実情に応じて違う動きかなと思います。D委員のところで行くと、高齢化と若者世代の二極化が進んでいますし、そういったところで各学区に応じた動きをしていくための次の目標の話かなとも思います。そこを踏まえた市や中間支援組織の指標ということは、また次の議論でさせていただきたいなと思います。

【委員長】

もう一度聞きます。第1章よろしいですか。
では第1章はクリアして第2章にいきます。ここは課題のところですから、皆さん方からいただいた意見を反映しているところですけども、これを読んだ上で御意見あるいは質問があればお願いします。

【副委員長】

確認の質問になります。ここに記載されている図表は、製本する際にはより大きくなりますか。文字が小さくて読みづらい表もごきます。

9ページの「町内会の意識の変化」の表は非常に大事な資料だと思いますので、大きくできるのであればそうしてください。次ページの「市民活動団体の意識」も同様にレイアウトの工夫で大きくしていただくと読みやすくなります。

【事務局】

見やすいようには編集したいと思っております。今はちょっとたちまちこういう形で資料をちょっと見てもらっていますが、ページの方は直させていただきます。

作業は委託などではなく全て市のほうでさせていただいておりますので、何とでもなります。

【委員長】

ワークショップの事例として出しているのは良くなっているのだけでも、20ページの各主体について思うことのまとめというのは、事務局が整理した図版ですね。これはさすがに1ページぐらいに広げてほしいです。PC だけで見たら見られるぐらいの話ですけど。

【事務局】

はいありがとうございます。せっかく皆さんにいただいた意見ですし、ここについては、両開きとかの大きくして見えるような感じにします。

【副委員長】

それに関連してになります。20ページにある模造紙の整理は見せようとしているのか、そうでないのかどちらでしょうか。

というのは、26ページは模造紙の内容がテキストで整理されています、計画策定にあたって意見出しをしたことが伝わります。一方で20ページのものは模造紙の写真で、内容までは文字を読んで把握することができません。こういうプロセスを経たということを伝えるためなのか、それとも内容まで伝えていきたいのかどちらでしょうか。テキストで整理するとすると事務局の負担も大きくなると思います。

【事務局】

今のところそこまで深い意図が実は持っていないで、26ページですとやりましたよっていうところの方が大きいかなと思っています。20ページですと、この中身のキーワードは今後繋がっていく部分のワードもあろうかと思ひますし、大きく見せて繋がっている部分を朱書きにするなど、ちょっとそういう工夫はさせてもらいたいなと思っています。と言いましたけれども26ページも多分いろいろ出てきて、それぞれの戦略について4つのグループワークをしてもらった意見で、たちまち時間がなかったので写真を貼らせてもらっていますが、後の展開に繋がるようなキーワードを拾っているのかっていうのはちょっとこちらの方で精査してデータ化するなりして、考えさせていただきたいと思います。

【J 委員】

13ページのところですが、地域の組織やグループ等に加入している市民の割合っていうのは30数%であって、町内会の加入率は80%以上ですね。アンケートの認識の中では、これは町内会を示しているのではないのだろうと思うのですが、同列に並べると何か矛盾するし、町内会で活動しているのがそれよりも多いのに、そのような結果となるのはどうしてか。

これは町内会という枠組みではなくて、もしかしたら町内の中での自主的な組織もあるだろうけども、そこを飛び越えた市民活動という認識であれば、市民活動に入れた方がいいです。多分最後の指標のところには、町内会の活動および地域の組織図というように区別しながら書いてあるので、このまとめのところの基礎的コミュニティの中に地域の組織を入れると、なんか不自然な感じがするので、入れない方がいいかなというような感じはしました。

【事務局】

ありがとうございます。ここは第1章の市民の定義のところと連動するかなと思っています。市民は、私発というところと、組織に属してというところがあったと思うのですが、まちづくり協議会で

すとか市民活動団体ですとか、ちょっとここは視点を変えないといけないと思います。

確かに町内会の加入率は83.1%、その一方で、草津市の総合計画でも活用している指標ではありますけれども、矛盾していると事務局も思っておりますので、持ち帰って検討させてもらいたいと思います。

【委員長】

※印がついているけど、※印の説明がどこにもないですよ。町内会の活動に参加している市民の割合ってというのは、これは役員をしている人という意味ですか。

【事務局】

すみません※印ですけども、12ページの第2次計画の実績と課題の文章の一番最後に、※印が市民意識調査結果よりっていうふうに付けさせてもらっています。

【委員長】

町内会加入率に対して活動に参加している市民の割合って、理由を想像すると役員経験者とかそういう意味になると思います。

【事務局】

13ページの基礎的コミュニティの実績の2つ目のところで、委員長から御指摘いただいたのですが、これは市民意識調査でして、御自身が町内会の活動に参加していると思うか思わないかが回答のベースになっています。一方、町内会加入率については、各町内会から出てくる世帯数で計算していますので、実績数値として現れてくるものになっています。

【委員長】

そうしたらついでにその地域の組織やグループに加入しているというのは、市民意識調査の中ではどういうことを対象に質問した中身なのですか。これはどういうものに対する答えを求めているのですか。

【事務局】

これが非常にややこしいのですが、先ほどJ委員がおっしゃっていただいた市民活動団体グループもありますが、町内会も含むあらゆる組織グループなので、ここでいう組織やグループっていうのはすごく幅広いものですので、町内会も含まれているのですが、この基礎的コミュニティの中に入れてしまうと、確かになじまないの、位置を変えようかなと思っています。

【委員長】

入るとすれば市民のところなのかなっていう気はします。市民のところではどういう意識を持っているか、多分先ほどの加入の話をちょっと活動の話もそうだけだね。言葉を数字だけ並べるのではなく、ちょっとコメントをつけてみたらわかりやすいと思います。例えばその町内会加入率の黒ポチがあって、その下のやつは同じレベルの黒ポチじゃなしに、「正しい市民意識調査によれば、活動を意識している人はこれぐらいです」というようなコメントになる。

これを市民の方で書いておいて、市民意識調査によると、市民の中でも積極的な活動をしている人は何%であるっていうのを書くことで、言葉に誤解を招かなくなると思います。他はよろしいですか。

【J委員】

すみませんもう一ついいですか。中間支援組織と市の実績の取り組み状況は最終的に○とか△とかで入っていて、課題で出ているので大丈夫だと思いますが、市は全部○になっています。

それはいいなあと思っているのですが、もっといいのは◎だと思って見たら、中間支援組織のA

のところだけ◎になっているのですが、これは単なるミスなのか、それとも意識的に◎にしているのかどうなのでしょう。

【事務局】

まず資料1の方の15ページ(6)の中間支援組織の項目のところで行きます。Aのところで行きますと、活動のための作業なので毎年評価をいただくわけですが、ここで行きますと、いろいろな試みをして、マッチングが実現されたというところを踏まえて、今年度は○ではなくて◎でさせてもらっています。

他は例えば市のところも含めて、確か◎、○、△、×みたいな評価ですけど、そんなに良い成果が出てないということで○になっています。

【J 委員】

わかりました。それまでなのですね。最高ではなくて、ということですね。わかるようにちょっと変えていただくといいかんと思うのですけれども。

【副委員長】

そこに関連して発言します。中間支援組織と市の部分は、どうしても通信簿的な○、△になってしまいます。事前打ち合わせの際、18ページに、○、△だけでなく、もう少し中間支援組織等の活躍を質的に載せてはどうかと提案しました。それで記載していただいていると思います。

その部分の書き方になります。18ページの上から3行目。まちづくり協議会へのコンサルタントとしての支援というような文章のところ。コミュニティ事業団と御一緒している中で、私が感じているコミュニティ事業団のキーワードがあります。「寄り添い型の伴走支援」や「ひとまちキラリのまちづくり助成事業」といったものです。それ以外では、まち協とジャガーの部屋のように各主体との繋ぎ役として非常に有効に機能していると捉えます。そのあたりのキーワードを入れてはどうかと思います。

同様に社協も、福祉的な部分での特徴があると思います。両方の中間支援組織の文章に、キーワードを入れて記述してはいかがでしょうか。

【委員長】

これ考えてみたらね。こういうとこだけ表で書いてあるのもすごい違和感があります。今まであんまりそこまで思いつかなかったし、作業が大変だろうと思ったけれども僕らも学生の論文を指導するときに、表だけ書いていたらだめだと、表題はただのデータだから、表題に対する考察を書かない限り、意味がないという話はここでも通用するなと思いました。

今は補足を書くのではなく、実績のところコミュニティ事業団はこういうことをしていてそういうところは非常に良い、しかしこういうところは問題があったと、社協はこうだったなどの文言が必要だと思います。

全体の評価については、表○とか以下のとおり示すなど、その一文が絶対いるのですよ。その文章が大事になりますから、大体みんな表を必死には見ないですよ。多分他のところもそうですけど、表だけのまとめっていうのはないと思います。

【事務局】

ありがとうございます。ちょっとここまで力が入れられてなくて申し訳ないです。おっしゃるとおりでして、この評価から何を読み取ってどう繋げていくかということと、この評価が資料だけでは読み取れないということで、心苦しいですが私ももっと文章を書くべきだなと思っておりまして、これから直していきたいなというふうに思っております。ありがとうございます。

【委員長】

課題の方はよろしいですか。内容については大体皆さんが語った内容は反映されているということによろしいですかね。

では大事な第3章ですね。第3章は追加資料と、この最後の5のところ以外は変わってないですかね。それともこの点でも変わったところがありますか。

【事務局】

5がメインで変わっているのですが、そこに行くまでのプロセスとして、追加資料の方の赤字で書かせてもらっている部分が資料1から変更している箇所になります。

もう1回追加資料1を説明させていただこうと思います。元々第3章最初の、今後の協働のまちづくりの展開というところで、「学ぶ」、「見える」、「つながる」、「ひろげる」というふうにさせてもらっていて、「ひろげる」の部分につきまして、元々は事業の拡大であったり、新たなキーパーソンの拡大であったりというところかつこれがあらゆるところに広がってというふうに書かせてもらっていましたが、こちらの「ひろげる」のところに、準参画層から参画層を拡大するっていう文言を入れさせていただきまして、「ひろげる」に紐づいて参画層の拡大を、次に書かせてもらっております。

そこから2番目の今後の協働の方向性と各主体の目指す姿は特に変わらないです。27ページの4番、各政策テーマですが、こちらは元々第2章の中にありました横断的課題の解決策にリンクしておりましたが、最終5番のところの成果指標が「学ぶ」、「見える」、「つながる」、「ひろげる」に紐付けて評価するというふうになりましたので、こちらの施策テーマの方も学ぶ、見える、繋がる、広げるそれぞれに基づいたテーマを書かせていただいております。こちら赤字の部分が修正したところになります。

【委員長】

元々の方27ページと新しいやつ27ページが介入をしてきて大きく変わっているということですかね。

【事務局】

そのとおりです。

【委員長】

なるほど。それを受け止めて、次の成果指標の設定というところが意識的な目標も含めて書かれているというのが今回の提案ということですね。

もう一度5、6分もらって、それから意見をいただきましょうか。27ページ辺りから変わっています。ついでにいうと27ページは、元々の27ページの中にある策定テーマ1の情報発信と共有とか、場所、機会の提供と書いてあるところは、新しいところでは場所が変わりながら盛り込まれているのですかね。

【事務局】

そうですね。基本的には場所が変わりながら盛り込んではおりますが、こちらの資料1の方の元の施策テーマにつきまして、具体的すぎるような文言もありましたので、そこらは市および中間支援組織から各主体に向けた相談業務の拡充というところのノウハウ的な部分としてまとめさせていただいております。

数は減少してはいますが、中身としてはその内容を盛り込んだ状態でそれぞれに反映して書かせてもらっている状況です。

【委員長】

変更に応じて、前のところでこれは絶対残しとかなないとだめだとかの話もあると思いますので、皆さん新しいものを見ていただけますか。

しばらく時間をとります。
(資料読み込み)

【I 委員】

新しい方の29ページでは市民の指標を「見える」、地縁の指標が「つながる」、各自治体の指標を「ひろげる」という表現になっていて、ここに中間施設の質的アプローチの進捗と書かれているものを書き換えている形になっていると思うのですが、それはそれとして、この30ページの市民の指標でいくと、5年前と今の目標では、5%ずつの伸びで地縁の方はそれほど伸びていないと、各主体の指標が令和5年度には2倍になっている。

ここで目標が1.5倍に増えているということは、ここに対する実績と、今後の期待を表現した評価だというふうに捉えているのですが、これの重要性が言われて地域のいろんな先進の取り組みも載っているように、こういう問題はこれから大事だというのはわかります。

ですが、こういう積極的な問題ではなく、今たちまち地域で出てきている問題とかで、例えばPTAが役員不足のために地域でやってくれというような問題が、テレビでちょっと報道されていることと、それから高齢者の居場所ということでの自殺の問題などが、厚労省で地域福祉として、そういう部分をカバーしてくれというようなことが言われています。

もう一つはこの間のワークショップで、若者に対する取り組みが減っているというようなことが出ていましたが、その地域というのは、元々高齢者や子育て世代、学生とか、そこに住んでいる人が主になって、昔は球技大会とか運動会があったのですが、そういうものがなくなってきているので、そういうものをもっと増やしていったらいいのではないかというのが私の意見です。

【委員長】

こまごました具体の話は別として、例えばそのPTAとか、自殺防止とかを地域に任せるという話が出ていることを受け止めたときに、どうしたらいいのかという話は、この指針の中でどこを見たらわかるのかという話ですね。

【事務局】

まず全てを網羅はできないと思っております。高齢者の自殺対策というのは、地域でできることは何か専門部署に聞いていきますと、地域でのつながり、居場所っていう置き換えにしていけることが大事だと思います。

例えば地域でいきますと、各学区など高齢者の方が集まる場所で、顔の見える関係をつくるのが大事なのかなという風に思っております。

それを計画上でどういうふうに見せるのかというと、好事例・先進事例のところで高齢者の居場所っていうのは、市民協働で作れているよというふうな事例として出てくればよかったのですが、今ちょっと紹介した限りではなかなか出てこなくて、そこはちょっと表現を検討させていただきたいなという風に思っております。

PTAの解散も、最近よく全国的にもニュースになって取り沙汰されておりますし、掘り下げていくと民生委員さんのなり手も不足してきているという問題もたくさんあります。

それらの問題を1つ1つ読み解いて解決策を協働と結び付けていくのが一番理想かなと思いますが、今ちょっとまだそこまで議論を進められていないので、ちょっと答えになっていないかもしれませんが、現状は置いておきたいのが正直なところです。

もう一つが学区のふれあいまつりですけども、地域の交流を増やそうとされている一方で、高齢化や共働き、定年延長等における担い手が不足してきていて、なかなか地域で逆効果になっている現状もあって、ちょっとこういう内容で書かせてもらっているところです。

【委員長】

元々送ってもらっている方で施策テーマ1からずっと書かれているところで、この段階のときに

は、実は地域でするような話も入っているのですよね。要するに、施策テーマ3のひとづくりや、テーマ4組織活動の見直しとかというのは、どちらかというと地域で取り組まないといけない話をして、市がそれをサポートするという意味で書いているのですよね。

ところが新しいやつは、かなり整理して、市や中間支援組織がするテーマという形に絞り込まれているがために、この辺のテーマ3だと家庭の様子についての話がなくなっているのですよ。これは整合性を重んじるよりも、ここが委員会で議論された話なので、こういう話がなくなっているということはすごく気になります。私は多分それが先ほどの話に繋がるのだと思います。実際は地域がどこまでできるかという話を議論しなきゃいけない。

ただそのときは、担い手もいなくなっている、かついろんな連携も必要になっていく。そうするとそれを誰がどこでサポートするのかとかという話として、論理が作られないとしんどいかなという気がしています。

【H 委員】

差し替え版の方でちょっと2点ほど気になったところがあります。まず1つ目が、27ページ目の各施策テーマの市民の育成のところ、言わんとしていることはそのとおりだと思いますけれども、市民の育成というのは言葉としてちょっと書き過ぎかなと思うので、モチベーションとか何かそういった類のものに改めた方がいいのかなってというのは思いました。

もう1点が、29ページの5番の学ぶのところに書いてあるポイントに基づく成果指標のところ、
「協働事業の推進を通して、職員一人ひとりが担当業務以外の業務に関心を持ち」というふうに書いていただいているところも、具体的な目標値として掲げられているのが協働を行うべきだと考えている割合だけだとあまりリンクしないかなと思いました。他のところが全て前文と目標値が密接にリンクしているような指標を挙げられているのかなというのも感じたので、私だけの思い違いであればそれまでですが、気になる点として挙げさせていただきました。

【副委員長】

市民の育成の表現について、私も同じように考えます。例えば、「市民への学びの機会の提供」のような表現がよろしいかと思います。

【G 委員】

古い方の27ページの施策テーマ2の「②子どもをまんやかに据えた行事の実施」が、新しいところにはもう入ってなくて、「楽しいイベントを提供してそこから積極的に」のところに全部含まれてしまったのかなと思ったりしていました。

ただ私の活動してきた経験によると、若いお母さんやお父さんの中でもすごい熱量の高い人がおられて、そこから私と一緒に活動していただく方もいらっしゃるの、こういうことは市じゃなくて地域ごとにやってよというのがわからないこともないですが、私にとっては大きいことなのでちょっと心に留めておいていただきたいなと思いました。

【委員長】

最初に説明したみたいに、具体的に近いから書きましたっていう話は逆だと思います。例えばこの子どもをまんやかに据えた行事の実施なんていう話は、なぜなくなったのかっていうふうな僕も気になりました。

何々をするためにという大目標があるとして、中目標、あるいは小目標ぐらいまで入れておかないと動かないし動けない。

具体的にみんながワーツと言った話をベースにして組み立てられているからですけども、元々の方が具体的に書かれているという気がしてならないですね。

先ほど言ったように、施策テーマ3や4は一気になくなっているので、そのあたりは気になるどころや大事にしてほしいところがあると思います。

【J 委員】

新しい方については、確かに「学ぶ」、「見える」、「つながる」、「ひろげる」っていうのに関連して入れるっていうのは、綺麗ではあるが、具体性に乏しい部分があって、実際に「学ぶ」、「見える」、「つながる」、「ひろげる」というのをそれぞれで分けてやる必要はないのかもしれないっていう思いがあったので、これをそれぞれにしていって結構難しいのかなという風にも感じました。そこら辺は先ほどの委員長の話であったように、具体性の部分が入られるかどうかというところで難しいのかなというふうに感じます。

それから成果の指標という部分についても、これも「学ぶ」、「見える」、「つながる」、「ひろげる」に関連しているなとは思いますが、例えば学びの部分にある地域協働合校っていうのを一つの例にするのであれば、そこが全然取り組みの中に書かれていないので、そういう整合性もちょっと難しいと思いました。

町内会のところとかも先ほどお話がありましたが、あんまり基礎的コミュニティが書いていない部分があるので、具体的にそういう主体との関わりとかが見えるようなものを書ける方が何か取り組みの評価はしやすいというように感じました。

それから別の視点ですが、これは以前と一緒のパターンだったので、ちょっとお話をせらうと、参画層の拡大に向けてですが、参画層の拡大に向けてのグラフは見やすいところですが、数字を出してしまうと、これが今の調査から実態で出ているのであれば、指標として目標に入ればいいと思いますが、あくまでも仮定ですし、強引的に書いている部分があると思うので、あえて数字は書かない方がいいのではないかと感じました。

それからもう一つ、目指す姿のこの図ですが、おそらくその福祉サイドとまちづくりサイドからの中間支援組織がうまく関わっていけば良いものができるだろうというような狙いだと思うので、それは一つのアプローチとしてはいいのかなと思いますが、その中に例えば他の各主体はどう入り込んでいるのかというのが書かれてないと、単なる中間支援組織の取り組みの図で終わってしまうので、これにそれぞれの関わりがどう入っていくのか、市民の部分も含めて整理されて表を作られると、さっきの部分の関係性もわかるのでいいのかなというふうに感じました。

【C 委員】

追加資料の施策テーマのところ、「学ぶ」、「見える」、「つながる」、「ひろげる」の枠組みで書かれた追加資料と、以前いただいた資料ですけれども、私も以前の方がいいかなと思います。

理由としては、前の資料の19ページのところに、各主体の横断的な課題っていうことで分類されているのですが、それに対して施策テーマが呼応しているような形になっているので、非常にわかりやすいです。19ページにこれだけ分類して課題というふうに整理されているので、それに施策っていうのは、やはり見やすい方がいいと思いますし、今回特にいろんな組織で準参画層を増やさなきゃいけないということがすごく大きなテーマになっていることに対して、各主体が自ら準参画層へアプローチを行うということでこの施策テーマが書かれているので、そういう意味においても今までの議論の流れに沿ってという意味でも前の資料との施策テーマ1、2のまとめの方が理解しやすいかなと思いました。

【委員長】

やっぱり「学ぶ」、「見える」、「つながる」、「ひろげる」でまとめるのは無理があると思います。要するに、綺麗にすることが計画案じゃないと思った方がいい。やれること、やりやすいことをちゃんと明示することが大事で、それがどんなキーワードに繋がるかという話なので、「学ぶ」、「見える」、「つながる」、「ひろげる」でまとめることによって、元々あった具体的な話だとかそういう話が整理整頓されていくというのは逆のような気がします。

最後の成果指標は、文言はもう少しいろいろあると思いますが、その話はあとですとして、もし書くならば、目標があってそれは何に繋がるかというところに、学ぶとか繋がるとかいうキーワード

が書かれるのであればいいと思います。計画の中で大事な話として「学ぶ」、「見える」、「つながる」、「ひろげる」という話が大事だって書いたことは大事だと思います。そしてそれはどこに生きてくるかと言ったら、実際今みんなが言った課題、それに対する目的ややり方が、実はこの「学ぶ」という指標だとかね、「つながる」という指標で説明できるのだよってというような書き方が良いと思います。だから、この一番目指す姿の隣にあるポイントとか書いてあるやつは、この表では一番右に来ると思います。

あまり「学ぶ」、「つながる」とかで整理整頓するのはいかなものかという話は、私が言うとか角が立つなと思ったけど言わせていただきました。

また、市が何をするかっていう話を最後に書くという書き方になっています。最終的に計画案だから市がすることに違いはないけれども、これまでこの委員会ですてきた議論というのは、市だけじゃできない、いろんな主体がいろんなところでやらなきゃいけない、そのやり方で大事な部分はここで、課題はここで、現状はこうだよなとずっと議論をしてきたわけですね。その延長線上にあるとすると、実はこのテーマで書かれているみたいに、地域組織でしなきゃいけない話は何か、中間支援組織でしなきゃいけないのではないかとかなんな話がすごく大事で、それを書きたいわけです。でもそれは市がすることじゃないというのわかっているんで、発想の転換で目指していることを達成するために市はこれだけのことをしますという2段階構成で書くのです。

第3次計画で各主体が目指す、あるべき姿はこうですよ、それを全体でつなげるとこうですよ、それをうまくやるために市はこれだけのことをしますよっていうのを、極力具体的な話として筋立てしてそれを頭に置いておかないと、市ができることだけを書いてしまうと、これまでの議論が飛んでしまいます。その2点だけ気になりました。

【事務局】

いろいろ御意見いただきましてありがとうございます。今日の評価委員会はまさにこういう意見をいただくために、ちょっと事務局の方でも情報処理とまとめがうまくいってない段階で意見をいただいたところでございます。

行政テクニックで言うと、「学ぶ」、「見える」、「つながる」、「ひろげる」というキーワードがあるので、それに応じた成果指標にしたいのですが、実際ここで意見をいただいているとおり、うちもジレンマにしているのですが、なかなかそこで具体性のある指標を出せないところです。

もう一つが1次計画、2次計画のときの反省になりますが、今季、昨年度以前からこの協働のまちづくり計画評価委員会では、どういうふうに地域が動いているのか、どういうことをもっていくのか、そこで草津市としてはどういう協働のまちづくりを目指していくのかという意見を皆さんからいっぱいいただきました。目標数値を下手に設定してしまうと、市の計画でよくありがちですが、計画数値を達成するためにどうなったのかという議論に陥りがちです。そこを避けるために、今日は時間がなかったのですが、1回こういう資料をぶつけて委員の皆さんの意見をいただきたかったところです。

元の案の資料でいきますと、数値目標の具体的な設定とかっていうところが、委員長がおっしゃっていただきましたとおり、この計画でちゃんとした数値を固めるっていうことは非常に難しいかなと思います。そこを目指していくために各主体はというところだけど、取り組む環境を整えるために市が何をしていくのか、中間支援組織が今ある事業をどういう意識を持ってやっていくのかっていうことを、今後計画ができた暁には評価をいただく指標にしていきたいなということを議論していただくために、このような資料にさせていただいたところです。

どこまでどうまとめるかすごく難しいなと思っておりますが、また事務局の方でまとめさせていただき、皆さんの意見を反映していきたいなというふうに思っております。

【副委員長】

ありがとうございます。今度は、計画のストーリー（流れ）に関する話です。追加資料の新しい方の23、24ページになります。拙書から「私発協働まちづくりのメカニズム」の図を入れていただいてありがとうございます。今までの議論で、私個人の動きに関する具体的話と抽象の話がありました。計画

の読み手からすると、このページから「私発の動き」というワードが出てくるため、少し唐突な印象を与えかねません。また「私発」のキーワードも私の論文では使用していますが、一般的に用いるワードではございません。もう少し説明が必要だと感じました。

どう整理しようかと考えていました。例えば23ページに、地域共生社会を考える視点の概念図があります。まちづくりの方のベクトルのところに、「興味関心から始まるまちづくり」という言葉があります。本来であれば、「地域のため」といった言葉を書くところのように感じますが、この図では、私発を念頭にいた言葉から始まっています。そうであれば、むしろこの下の部分に、コラム的なかたちで「私から始まるまちづくりの動きが見られていて、そういった動き(アクター)への期待もある」というようにして説明してはいかがでしょうか。

例えば、子ども食堂や不登校児童生徒の居場所づくりなどにおいて、そういった子育て世代や若者の動きがあるということを説明する。そのうえで、「私発協働まちづくりのメカニズム」の図をこれぐらいで載せていただくか、小さくするといったところでしょうか。どこまでこの計画と連動するかによりますが、そういう動きの具体例として、老上のジャガーさんの取り組みやヤマミラの取り組みがあると思います。それらの事例を参照しながら、「目指す姿」の部分で厚く記述していくのはいかがでしょうか。

必要でありましたら、その部分は事務局と個別にやり取りできます。私発協働の概念自体も委員長の恩師である延藤先生のご概念ですので、先生の書籍等を引用しながら説明した方がよいと思います。以上です。

【D 委員】

今まで出てきたこととあんまり変わらないですけど、やっぱり前回までの修正前のオリジナルの方が、しっくりくるなと思っています。新しい方は、イベントの話の種類を変えてしまうような、意図としてはそうではないのだろうと感じました。

【委員長】

大変ですけれども、4の各施策のテーマは多分もうこのタイトルじゃなくなってしまうと思いますが、基本的にはそれこそ第3次計画で何をやるのかっていうことが、最終的にはここで書かれていてほしいです。

それこそ最初のイントロのところで、さっきも言いたみたいに市だけでやるのではなくて、いろんなところがちゃんとやりながら、新しい草津市を作るのだよって話があって、そのためにこれまでそれぞれの主体ごとに分けて課題とかもやってきたと。ついでに変えながらその記載も明確に分かれるものではなくて、それぞれ重なりながら今動いているのだという話を書いておいて、大事なのはやっぱりそこがきちんとやっていけることだと示す必要があります。そしてそこが第3次計画の一番骨になるのだという話をちゃんと明言した上で、大体ここではそのために市内の中間支援組織がどういうことに取り組んでいくかという整理するというような、位置づけをちゃんと整理整頓しておくことが非常に大事だと思います。そうすればこれは市の計画案として読めますし、その辺をちゃんと混乱させないようにしてほしいというのは1点あります。

その上で皆さん言われているみたいに、これまでのテーマみたいな話を大事にしながら個人的に指導対話をするという話の中に、まち協だとかそういうところは具体的に言われながらも、ちゃんと入れた方がいいと思います。見直すということはすると思いますが、言葉を考えないといけないですね。

あと、ちゃんと対話をしていくような話も入れてほしいかなと思っています。

あとついでにさっきの話で、新しいところの23ページで図はこれから作るって話ですよ。対話と協働で進めまして、目指す姿の1つで、福祉サイドからのアプローチとまちづくり地域創生サイドからのアプローチって書いてあるのは、草津で言えば、社協とコミュニティ事業団の二つに対応するイメージで書かれているのかなという気はするのですが、それ自身が草津市にとってあるべき姿という話は分からなくはないですが、これはもうむしろ事務局の方で議論してください。福祉

が個別支援でまちづくりが興味関心から始まるまちづくりというのは、これあまりにも短絡的です。実際はその福祉課題からスタートする話と、地域の活性化や地域の交流から始まる課題という話ぐらいが妥当な線でしょうし、それ以上に近年の議論で一番大事なのは、そんな課題が別々に存在するのではなく地域の中でかぶっているという話の方が大事で、それがこの絵に表れていないといけない。つまり、別々のものがあってこの重なるところでやるのではなくて、実際にかぶっている話に対して、福祉アプローチと地域創生サイドからのアプローチがあって、中間支援組織の動き、地域の方の動き、公益団体の関わりということをご表すとすれば、今の草津市の状況を図式的に表すような絵がないとあるべき姿の話にならない。

言うのは楽としてそれを作れと言われたらちよっとしんどいので、頑張ってくださいねとしか言いようがないですけども、そういう気がしています。そこをちゃんと書けることが、草津市のこれから先のあり方を絵にするもののような気はします。

【J 委員】

今私は基礎的コミュニティの役員をしていますので、その立場からすると、やっぱりそういう部分をきちっと第3次計画の中に入れていただきたいということと、先進事例で見てもわかるように、基礎的コミュニティの先進事例はあるだろうと思いますが吸い上げられてないし、目に見えていない部分もあると思います。

私発のまちづくりという形で、そういうような思想の中で基礎的コミュニティをどう活性化するかという部分で言えば、一番は地縁組織でもあるだろうし、そこが結構形骸化して硬直化しているという部分が、今までの私達の議論であった通りだと思うので、そういうところをどう施策として支援してもらうかというような部分を、是非とも書いていただきたいです。例えば、今のコミュニティ事業団では市民活動とかそういう団体の補助事業ですけども、私は町内会ですので、そういう市民活動を盛んに取り入れた町内会の中で、有志でこういうふうな活動をしたりとか、町内会組織としての支援をしたりとか、確か個別の事業相談をされていると伺いましたが、それも一つのモデル事業としてやっていけば、ある自治会で活動を支援しながら、私発の思いからすごい事例が出てきたとかもいいのかないかなと思いました。

私の自治会と重ね合わせて話している部分もあるのですが、今まち協はすごく活性化されつつあるというのは感じ取れるので、他に自治会でも何か活性化できるようなものがあればいいなというような個人的な思いも含めて出させていただきました。以上です。

【委員長】

大事なというか、さっきの話の中で基礎的コミュニティとしての町内会をどう耕していくのかという話ですね。これは指標の中に書けとは言えませんが、ただ、もしそれをするつもりだったとすると、一つはまちづくり協議会との対話を進めるという話があるとすると、福岡市に倣うなら本来は、町内会と対話するとか、要は書かれてしまうと、ものすごい縛りになるので、簡単に書けないでしょうけれども、話としてはそういう話だと思います。

【事務局】

それで言うと、1町内会ずつ訪問して会話するってなかなか物理的にも時間的にもしんどいかなと思っています。草津市の場合でいうと、40年以上経過して高齢化が進む町内会、40年未満の若い世代の町内会、マンション町内会とかそういう分類したところで意見交換しようというのは施策としていけるかなとところが考えていました。

実はコロナ禍の間に、マンション町内会長さん方に集まってもらって意見交換するっていうこともありましたし、そういうところから何か検討していきたいなと思っています。

【委員長】

この前福岡市がやっているという話がものすごくいい意味でショッキングで、すごいな政令指定都

市と思いました。それでもものすごく風通しが良くなったという話を聞いているものだから、情報として提供しておきます。

あと、さっきの話を受けていくと、成果指標のところの文言あるじゃないですか。これをもって文言が豊かになるはずですが。質的な目標を書くのはとてもいいと思いますけど、将来の目標って子どもに書かせたら、%で書かないですよ。作文にするのだからほとんどでこういう書き方になっているのだけど、そのときは多分ここはもう少しいろんな話が書かれてしかるべきだろうなと思っています。

【副委員長】

どう書いた方がわかりやすいか考えながらの発言になります。事例の書き方です。何々×何々という書き方になっており、これが整理しやすい書き方だとは思いますが。例えば、追加資料の志津の事例ですと、志津まち協が主体で、まちづくりスポット大津が対話やワークショップのノウハウを提供して開催したという協働のかたちですよ。であれば、タイトルは、「まちづくりスポット大津とともに、志津学区がワークショップを開催」といったように、主従関係やどのようなノウハウの提供があったのかといったものがわかるようなかたちのタイトルもよいと思いました。他の事例もそのようなタイトルでまとめていけるかどうかかわからないですが、例えば、滋賀ログと feel→do!、商工会議所、立命館大学の事例になると、四つの何々×何々となっているため、どこがメインの主体でどこがノウハウ提供したといった話が見えづらいと思いました。

あと追加資料1の26ページの、(6)の中間支援組織の文言についてです。上から4行目に「まちづくりや福祉といったテーマに固執せず」とありますが、「固執せず」といったネガティブな表現よりも、「いずれか一方ではなく」のような言葉を用いてはいかがでしょうか。「理解し合うなど、柔軟に対応することが必要です」などそういう言葉でも良いと思いました。

【委員長】

事例のところは掛け算とかせず、関連キーワードとか、コラムのタイトルみたいな気持ちで何かそんな言葉で検索機能みたいなつもりで書いておいたらごまかしがきくのではないかな。

【事務局】

そうですね。「こどもの居場所」だとか、何かそういうワードは作りたいなと思います。

【委員長】

まちづくり協議会が関わったとか、そんな話は一応書きたいとすると、それこそキーワードくらいでいいのではないかな。多分むしろその方がごまかしもきくし、何これはって言われなと思います。

下の対応課題は最初の頃は番号だけだったのが、ちゃんとキーワードを持っているのでそれはいいと思います。他、よろしいですか。

【D 委員】

事例のところ、いつやられたかという情報があればいいと思いました。

【委員長】

今回はこれで出てきた話を最後これでいいかっていう感じですよ。あんまりスタートからの話をするわけにはいかないから、そもそも論で語られるのは今日までということはおわかっていただいた上でよろしいですか。と言いながらも相当また事務局に重たい荷物を背負わせてしまいましたけれども、とりあえず今日の議論はこれで終わりにして、事務局にお返しします。

【事務局】

本日は素案のところで御意見をいただきましてありがとうございます。委員長からもありました次回は次第にもありますが、11月26日です。位置づけとしましては、もう少しブラッシュアップしまして、中間取りまとめということにさせていただいております。私どもの方で議会の方に中間報告をさせていただいて、最終的に委員の皆様に見ていただくというふうにしていきたいなというふうに考えております。

あとですね、確かに短期間で最後ブラッシュアップしていくというのがありますので、今日いただいた意見をちょっと整理しながら、また個別に相談させていただくこともあるかもしれませんが、また個別に意見があったら、どんどん積極的にメール等で御意見いただけたらなというふうに思っております。

次回ではほぼ計画案の内容を確定していきたいなというふうに思います。それ以降につきましては、議会に報告させてもらいながら、委員長、副委員長に見ていただくという形で進めていけたらというふうに思っております。本日は2時間にわたりどうもありがとうございました。